

育成会 かわさき



知的障害者親の会 会報 No. 187

2017・11・1

川崎市へ平成30年度予算要望の提出

川崎市育成会手をむすぶ親の会 会長 結城 眞知子

いつも、親の会活動にご協力いただき、ありがとうございます。

当会は、知的障害のある人がライフステージに応じた適切な支援のもとに安心して暮らせることを願い、共生社会の実現を目指して日々活動しています。その成果として、全国組織である育成会では、障害者権利条約の批准、障害者差別解消法の成立、成年後見人の選挙権回復などを実現できました。



また、当会は川崎市において、「在宅ゼロ」や「短期入所（ショートステイ）施設・ライブラリー」の開設、「南部地域入所施設」の建設、川崎市障害者施策審議会部会としての「障害者差別解消支援地域協議会」の設置とその委員として参加することができました。

さて、今年も8月23日に知的障害者の立場から、意見や要望を川崎市に提出しました。親の会の切なる願いが一つでも多く、早期に実現できるようにお願いしました。

1. 特別支援学校卒業生在宅ゼロ施策の継続
2. 障害者の高齢化と家族の高齢化に向けた取組み
3. 地域生活を支える保健、医療、福祉サービスの拡充
4. 障害者理解を深めるための啓発の積極的な推進
5. 障害者の所得保障（年金の保障、就労支援制度の拡充）
6. 災害時一次避難所の運営の再検討
7. 食事提供体制加算の継続

会員からの強い要望は、やはり親の高齢化と親なき後の問題です。現在のグループホーム利用者の大半は知的障害の比較的軽い人たちです。親の支援なき後のことを考えると、最重度で自立度が低い障害者も入居できる手厚い支援のグループホームが必要です。

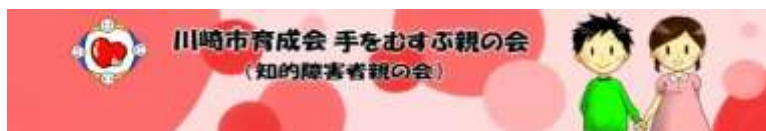
それから、親が病気になり長期療養になった時に安心して治療に専念できるようにミドルステイ（3か月位）の制度化や通所先の施設の利用時間の延長ができる制度も必要です。

高齢化に伴う差し迫った課題が多い中、親の会として短期・中長期としっかり見据えながら実現に向けて努力してまいります。

また、来年の9月14日に開催される「第52回手をつなぐ育成会関東甲信越大会・川崎大会」に向けてご支援とご協力をよろしく願いいたします。

ホームページ

「川崎市育成会手をむすぶ親の会」で、検索してください。



第 5 1 回 手をつなぐ育成会関東甲信越大会 千葉大会

テーマ ここでも暮らし続ける

日にち：平成 29 年 7 月 22 日（土） 場所：松戸森のホール&21 世紀の森と広場



【大会式典】

開式の言葉で始まり、千葉県知事（代理）、松戸市長の祝辞が続きました。大会実行委員長千葉県手をつなぐ育成会田上会長は、「私たちは、活動方針に新たな視点を加える時期に来たのではないのでしょうか。世間の人に障害を理解していただく活動に注力する時期に来たのだと思います。地域生活を継続する上で何が必要か知恵を出し合いました。」と挨拶されました。

【全体会】

1. 千葉県報告「千葉県袖ヶ浦福祉センターの改革に向けて」

千葉県健康福祉部障害福祉事業課課長 岡田 慎太郎 氏

平成 25 年 1 月に施設職員の虐待により入所者が死亡した事件の、その後の改革について説明がありました。

見直しへの取り組みとして ①見直し進捗管理委員会の設置 ②施設環境の整備 ③利用者の地域移行 ④専門的知識を有する人材の育成 ⑤外部専門職による支援の向上などを行い、平成 30 年度からの指定管理者の募集にあたって、改善の見通しが見えてきました。今後も、利用者や保護者の理解を得ながら、きめ細かい支援の実現に向けて取り組んでいきます。

2. 中央情勢報告「障害福祉の動向と今後の育成会活動の方向性について」

全国手をつなぐ育成会統括 田中 正博 氏

①障害者福祉の動向

- ・障害者福祉予算は増えているが、限界がある。福祉資源を何処に投入するかが大切
- ・世話される人ではなく、社会に能動的に関わり人生を楽しむ普通の人の人間関係
- ・「我が事・丸ごと」の地域共生型福祉…重度障害者への焦点化が重要

高齢・障害・児童の縦割りから「丸ごと」へ支える側と支えられる側の融合

②平成 30 年度障害福祉サービス等報酬改定に関すること

- ・自立生活援助（新サービス） ・重度障害者等包括支援・重度訪問介護の訪問先拡大
- ・就労定着支援（新サービス） ・高齢障害者の介護保険サービスの円滑な利用
- ・社会福祉法人等による法人後見の取組 など

③今後の育成会活動

- ・育成会の理念は、障害のある人たちの幸せを実現するための活動です。フットワーク良く、柔軟に、新しいアイデアで対応できる体制が必要
- ・市町育成会活動の停滞化と会員の減少
- ・今こそ手をつけて改善しなければ、来年はもっとヒドイ状況になる

3. 大会宣言・本人大会決議

4. 次期開催地挨拶

川崎市育成会手をむすぶ親の会会長 結城 眞知子 氏



平成 30 年 9 月 14 日（金）第 52 回手をつなぐ育成会関東甲信越大会 川崎大会を開催します。分科会は、日航ホテルで「働く」と「高齢」の 2 つを行います。全体会は、ミュージアム川崎で行い、式典の後、音楽の街かわさきに相応しくコンサートを楽しんでいただきます。本人会は、バスツアーで、藤子・F・不二雄ミュージアムを予定しています。大勢の方々が参加して下さいますよう、よろしく願いいたします。

第 5 1 回手をつなぐ育成会関東甲信越大会千葉大会 分科会

第 1 分科会 「心に栄養を！」 ～共感から始まる仲間づくり～

今まで私が参加してきた講演は基調講演からシンポジウム、その後、参加者から質問、意見、感想という形でしたが、今回の第 1 分科会ではファシリテーターの進行を受け、グループごとのディスカッションを行いました。



家族支援プロジェクトという活動があることも今回初めて知りました。登壇者の明星大学人文学部福祉実践学科教授吉川 かおり 氏の家族支援の重要性のお話がありグループワークと進んで行きました。「自己紹介などで皆さんは子どもの紹介で終わることが多いです。それはあなたのことではありませんよね。ご自分のことを紹介してください。」とやんわり釘をさされ、グループごとに各自名前、自分の長所、短所、初めてのデートで行った場所 (!) を順番に話し、次にお隣の人を褒めてくださいという課題が与えられました。このワークショップ (参加して交流しながら体験する) では、守秘義務 (話はこの場かぎり) ・パスする権利 ・話を独占しない ・上下関係、比較、評価を持ち込まない ・非暴力 ・政治、宗教を押し付けないというルールがあり、日頃の自分の言動を反省することにもなりました。どのグループも様々な会話で盛り上がり、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。まさに、「心に栄養を！」いただいた分科会でした。 (神田 明子)

第 2 分科会 「ありのままを伝えたい」 ～障害理解を深めて共生社会へ～



ミニ公演の「言葉がわからない・伝わらないってどういうこと？」では、市川手をつなぐ親の会キャラバン隊『空』の公演が披露され、言葉の通じないピカチュウ王国では、体験者が伝えたくても伝わりづらい様子が繰り返されました。

また、シンポジウムの「知ってほしい・伝えたい…活動の効果と課題」では、キャラバン隊で何を伝えよう！キャラバン隊をつくるにはどうしたらいいだろう！ といった問いかけに、「障害の特性を知ってもらおう。子どもたちの過ごす現場で、講演を増やすこと。配慮を必要とする子どもの不自由さをより分かりやすく伝え、教職員や支援者に知ってもらいたい。活動をする中で、若い世代に啓発することで障害のある人たちに自発的に接してくれる人が地域に増えていくのではと感じる。」といった活動報告がありました。

シンポジスト 敷島文氏 (座間キャラバン隊)、春日明子氏 (八千代キャラバン隊トリック・オ・ホリック)、岡部美穂子氏 (松戸キャラバン隊たねっこ)、平野緑氏 (市川手をつなぐ親の会副会長『空』代表) コーディネーター/助言者 堀江まゆみ氏 (白梅学園大学教授)

最後の総括 啓発活動を進めて&勧めていこう！～イマドキだから、合理的配慮理解キャラバン隊！～では、堀江教授が、「座間キャラバン隊が『バリアフリー・ユニバサルデザイン推進功労者表彰』を受賞し内閣府が注目している。そして、国は“親の力”は地域社会を共生社会にするために不可欠な社会資源だと認知している。その背景には障害者権利条約があり障害者差別解消法があるが、合理的配慮は親が先取りして進めていた。だから、『合理的配慮理解キャラバン隊』のネーミングで、活動を進めてはどうかと思う。

キャラバン隊をやって一番変わるのは親。一般企業や警察は通常では分かり得ないことを教えてくれ、親たちにも誠意をもって向き合ってくれる。つまりは社会と対等となる。今、蒔いた種が 10 年後、20 年後、社会のコアを埋める。その日まで一緒に進めたらと有難いと思う。」と、まとめていただきました。 (三浦 ルイ子)

第 3 分科会 「計画相談で広がる暮らし」 ～本人に伴奏する～



基調講演「計画相談と基幹相談支援センターを身近なものに！」
 田中 正博 氏 全国手をつなぐ育成会連合会 統括
 シンポジウム「切れ目のない支援を求めて」
 シンポジスト 藤井 公雄 氏「松戸市基幹相談支援センターCOCO」センター長
 橋本 諭 氏「社会福祉法人彩会相談支援センターいろどり」 所長
 竹矢 亘 氏「社会福祉法人同愛会練馬区立大泉福祉作業所」支援課長
 コーディネーター 渋沢 茂 氏「中核地域生活支援センター長生ひなた」 所長
 助言者 田中 正博 氏 (前掲)



基調講演は、本人の意向に沿いそのライフストーリーを見据えた支援を行うには、サービス等利用計画の作成が必要で、相談支援センターの機能の充実が重要とのことでした。

シンポジウムでは、「中核地域相談支援センター」は千葉県独自の機関で、県内に 3 か所設置されています。基幹相談支援センターとは役割分担があるわけではないとのことです。切れ目のない支援提供と、柔軟な対応のできる支援センターという印象を受けました。

藤井氏の「基幹相談支援センターCOCO」では、「よりそうこと」「その場しのぎ」「待つこと」を大切にしています。「その場しのぎ？」と思いましたが、待ったなしの状況では、まさに「その場」をしのいで支援に繋がらないと命に係わるという話に納得しました。その後の橋本氏の話にも出ましたが、基幹相談支援センターと地域の相談支援センターの連携が良く、情報共有できていると感じました。橋本氏は、気負わず、相談者に寄り添い、最善の方法を探して東奔西走している様子をライトな口調で話されました。竹矢氏の話は、サービスを受けにくい強度行動障害の方の支援についてでした。問題行動は、障害特性の理解と環境の配慮のミスマッチによって生ずる。自傷、他害などは生来ある問題行動ではなく、コミュニケーション機能に関連しているため、児童期学齢期の支援が大切で、児童のサービス等利用計画は特に重要とのことでした。相談支援を中心に関係者が良い連携をとれたら、本人も、周りも、もっと良い方向に向かえる、と語られました。(高山 君子)

第 4 分科会 「高齢化を考える」 ～暮らしと医療・だれに託す？～

基調講演「障害のある人の高齢化問題を考える」
 志賀 利一 氏 独立行政法人国立のぞみの園研究部部
 シンポジウム「暮らしの中の医療」
 星野 大和 医師 医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所 新松戸 副院長
 森田 美智子 氏 社会福祉法人 いちばん星 理事長
 コーディネーター 荒井 隆一 氏 社会福祉法人 ロザリオの聖母会 ナザレの家あさひ所長
 助言者 志賀 利一 氏



基調講演では、国立のぞみの園の現状説明と知的障害のある人の高齢化について話がありました。高齢期の単調になりがちな日常を、制度の利用、医療のあり方、人材育成などの課題を克服して充実した生活が送れるようにすることが重要だとのことでした。

シンポジウムでは、訪問医療の現場にいる星野医師から、高齢になると医療の必要性が増すがアクセスが困難になる現状を、森田さんと荒井さんからは、高齢期をグループホームで過ごしている方の医療との関わりと看取りについての話を伺いました。だれもが高齢になると医療とは切っても切れない生活になるので、予防医学や親亡き後の生活を若い内からイメージしておくことが大切だと思いました。また、看取る側になる支援者のメンタルケアの話を伺い、障害のあるなしに関係なく、一人の人間が人生を生き抜くことの大切さ、難しさ、切なさを深く考えさせられる分科会でした。(仁尾 智都子)

第 5 分科会「権利擁護を考える」

～相模原事件から 1 年…多様性を認め合える共生社会を目指す～

1. 紙芝居でわかる差別解消法(西宮市作成のインターネットテレビから)

「たけしくんがラーメンを好きになったわけ」という題の小学生がみてもわかりやすいデジタル紙芝居風のものでした。子供の頃からの人権教育の大切さを感じました。

2. 基調講演:「差別解消法と事件が投げかけるもの」 毎日新聞論説委員 野澤 和弘氏

『障害者の「価値」とは何なのか』と題して、相模原の事件から巻き起こった障害者の存在価値についての話がありました。「障害者は生きている価値がない」「社会に不幸を作ることしかできない」という犯人の言葉が様々なメディアで流されました。そして、その言葉に共感している人が少なくないことに不安な気持ちになる人も多いと思います。でも、現実には家族は疲れているけれど不幸ではないし、逆に元気をもらっています。障害者は社会にとって不要なものなどではないのです。



また、差別解消法については、障害者を通して社会をよくすることができる例がたくさんあるので、より広く合理的配慮を理解してもらわなければならないと話されました。

3. 鼎談:「私たちができることは」

久保厚子氏 全国手をつなぐ育成会連合会会長
松上利男氏 社会福祉法人 北摂杉の子会 理事長
野澤和弘氏 毎日新聞論説委員



松上氏: 相模原の事件においては、犯人が施設の元

職員であったということがとても重大なことです。すべての社会福祉法人は職員の指導、管理を適切に行わなければなりません。そして、今回の事件は正しく検証されなければならないのです。

久保氏: 私たちは留まらず発信しなければなりません。『障害のある人は懸命に生きている』と。今こそ糸賀一雄先生の言葉『この子らを世の光に』の通り、皆が互いの存在を肯定できるような社会を目指していかなければならないのです。

野澤氏: 障害者に対する社会的差別(被害者の名前を匿名にするなど)をなくすために、たくさんの人に障害者の存在する意味を理解してもらわなければならないのです。私たちは、今こそ次世代を見据えて発信していく必要があります。

以上のように、それぞれの立場から障害者の“これから”が語られました。私たちも障害者理解の啓発活動に力を入れなければ、と思いました。(梅田 順子)

関東甲信越大会千葉大会 本人大会に参加して

川崎支部 近藤 節子

7月22日(土)千葉大会に「私たちの広場」のメンバー3名と支援者2名にて参加しました。

松戸市にある「森のホール」にて式典に参加し、その後、「21世紀森と広場」へ移動し、バーベキュー会場でボランティアの方が用意してくださった焼きそば、ステーキ、豚汁、すいかなどを美味しくいただきました。



午後は、「みんなで話そう」のテーマで①趣味、②仕事、③いじめ、④ぶっちゃけトーク又は「森の散策」を選んで参加することになりました。

メンバー2名は、話し合いに参加し、ご本人、支援者、関係者を変えて、自己紹介や情報交換などで交流を深めることが出来ました。

また、来年の本人大会で会えるのを楽しみに帰ってきました。



川崎市議会議員団との懇談会

副会長 美和 とよみ



7 月 11 日 (火) 日本共産党



7 月 11 日 (火) 民主みらい

平成 30 年度の予算要望に向けて各市議団と懇談会を行いました。結城会長の施策要望に続き、重点要望についてそれぞれの担当者から説明しました。

グループホームの整備推進・世話人体制の充実、ショートステイの拡充、地域生活支援拠点施設の各区建設（24 時間対応の相談機能併設）など、障害者とその親の高齢化には必要な支援ですので時間を取って話をさせて頂きました。

また、災害時の一次避難場所の障害者配慮の必要性や、施設での給食の食事提供体制加算を継続していただけるように要望しました。

特別支援学校卒業生在宅ゼロ対策の継続や、養護学校支部からの強い要望がある日中一時支援・夕方支援の整備についても説明しました。



7 月 19 日 (水) 自民党



7 月 25 日 (火) 公明党

地域で安心して暮らして行くためには、まだまだ多くの支援・施策が必要です。要望について、党派を超えた取組がなされることを切に望みます。市議会での議員質問にも関心を持っていきたいと思ひます。

まじわーる de まなぶ 講演会

「みんなが混ざり合う地域を目指して」

副会長 宮澤 明

9 月 9 日 (土) 高津区の川崎市生活文化会館・てくのホールにて、社会福祉法人みのり会・生活支援センターきまっしー主催の講演会が開催されました。

講師は、宮前区在住の特定非営利活動法人ピーフルデザイン研究所代表理事 須藤 シンジ 氏です。須藤氏は、現在、川崎、渋谷、オランダなどを中心に活動。「次男が脳性麻痺で出生。それまでは、障害者、福祉問題とは無縁な生活だった。」サービスを受ける側になり、このままでは自立していける社会にならないと自身の提案を各分野、団体などに提唱してきているとのこと。「5 年前に、多様性に対応できる価値観、ダイバーシティの実現を目指すピーフルデザイン研究所を渋谷に立ち上げた。」方法論としての、①モノづくり②コトづくり③シゴトづくり④ヒトづくりに果敢に挑戦。日本における障害者は人口の 6%、この 6% が当たり前混ざり合う状態が目標で、「川崎フロンターレの試合の運営スタッフのうちの 6% の枠に精神・知的障害者の方々に参加してもらい混ざり合っシゴトに取組んでいる。他のプログラムとともに、これらの体験を通して一般就労にも結びつけることができた。川崎市の助成もあるが、マスコミも取り上げシティ・プロモーションの広告効果を生み出すこともできた。」



働きたいが時間も期間も長く働けない、障害者雇用率にはカウントされない週 20 時間未満の人たちへの短時間雇用に向けて取組みたい。外国から見た日本の福祉施策の貧弱さ、市民連携で環境改善をと結ばれました。

おしゃべり塾 報告と次回のお知らせ



権利擁護委員長 仁尾 智都子

9月15日(金)、地域福祉施設「ちどり」で、おしゃべり塾を開催しました。15名の方の参加がありました。

今回のテーマは、「障害のあるひとの選挙って?」で、狛江市手をつなぐ親の会作成のDVDを見たあと、話し合いをしました。

選挙で1票を投じることは、とても大事なことです。一人で投票することが難しい人は、代理投票という形で投票ができます。受付で、「代理選挙を希望します。」という意味を伝えて投票します。期日前投票でも、代理投票ができます。ぜひ、挑戦してみてください。

次回は、12月6日(水)10時30分～12時 地域福祉施設「ちどり」1階会議室です。詳しくは、チラシをご覧ください。

第51回手をつなぐ育成会関東甲信越大会千葉大会に参加して



副会長 美和 とよみ

川崎市育成会からは20名が参加しました。

千葉大会は、5分科会もあり、どの分科会に参加しようかと迷うほどでした。スタッフの人数も多く、気持ちが伝わってくる温かい雰囲気の大大会でした。来年の川崎大会の参考にし、「川崎に来てよかった」と思っていただけのような大会にしたいと思います。みんなで力を合わせて取り組みましょう。

自由投稿

川崎支部 中村 恵美子

7月20日は給料日で息子にとって嬉しい日のはずでしたが、突然、京急川崎駅で男性から「映画鑑賞のメンバー会員にならないか」と声を掛けられ、息子は何度も「いらない!」と断りました。すると男は「自分は〇〇放送の宣伝部です」と言い封筒を渡し、10万円を要求し「お金は後で返します」と言ったそうです。

息子は、その言葉を信用して、お金を払ってしまったというのです。不安そうな声で話をしていたのですが、キャッチセールスの被害だと思い、その場から交番へ行かせました。

その後、警察からの連絡では、断らず、品物を受け取り、脅されてお金を渡した訳でもないのに被害ではないとの報告を受けましたが、納得は出来ませんでした。

帰宅してきた息子は受け取ってしまった封筒を差し出し、意気消沈した様子で「お金、返ってくるかな?」とつぶやきました。中には、会員案内とメンバーズカードとでたらめな領収書が入っていました。領収書を見ると更に怒りが込み上げてきました。

翌日、消費者センターに相談し、クーリングオフをしました。センターからも、相手側に電話して頂きましたが連絡が取れず、2週間余り過ぎたので、被害届を出そうと考えていたところ、電話が通じ、半信半疑でメンバーズカードを返送して1週後の8月7日にお金が戻ってきました。この間、悔しい気持ちと諦めの気持ちが交錯していましたが、センターの適切な対応で問題が解決できたので、感謝しています。

これからも、息子には「声をかけられても応じないこと!」と言い続けなければなりません。今後、断り切れない弱い立場の人がキャッチセールスなどの被害にあわないことを願っています。



海水訓練（海水浴）のつどい

宮前支部 小澤 千枝



7月26日（水）あいにくの曇り空となってしまいましたが、海水訓練が開催されました。参加者はボランティアさん9名を含む85名です。福祉バス2台は、「アクアライン海ほたる」で合流したのち、千葉県勝浦に向いました。途中休憩の「道の駅・たけゆらの里」では本格的に雨が降っていましたが、ホテル到着後には雨も上がり、予定通り海に入ることができました。海水は少し冷たいものの波は穏やかで、浮輪

で浮いたり、ボランティアさんと海の中を歩いたり、皆さん思い思いに遊んで笑顔が多く見られました。ホテルに戻ってからの入浴は、男性（本人）にはボランティアさんの介助があったので、母親たちも温泉に入ることができました。また、海に行かず、温泉をゆっくり楽しまれた方々もいました。帰りは「君津四季の蔵」と「海ほたる」で買い物を楽しみ、初めての参加でしたが、海水浴とバスツアーを親子で楽しむことができました。

緑陰訓練 河口湖猿まわしとリニアモーターカー

中原支部 吉野 明美



9月30日（土）3台のバスに分乗して、河口湖を目指して中央高速を走りました。

お天気にも恵まれ、お猿さんの良く訓練された演目は、とても可愛らしく日常の喧騒を忘れるひと時でした。その後、「里の駅いちのみや」で美味しい昼食を済ませ、リニア見学センターへと向かいました。リニューアルされた館内では、実車車両の展示があり、車中を見学しミニ

リニアに試乗して磁気浮上走行を体験しました。目にも留まらない速さのリニア開通まであと10年だそうです。「そのときに乗れたらよいなあ。」と思いました。

お猿さんの伝統芸能に癒やされ、美味しいポークをいただき、リニアの技術にわくわくした、盛りだくさんの秋の1日となりました。

ふれあいバザールみぞのくち（ふれあい製品展示即売会）開催のお知らせ

日 時 平成29年11月16日（木）11時～18時
場 所 JR南武線武蔵溝ノ口駅改札外 南北自由通路



川崎スポーツの会（私たちの広場）

川崎市内本人の交流会「川崎スポーツの会」（注）では、平成29年9月10日（日）年に一度の日帰りバス研修会を実施しました。参加者は本人と支援者等を含め23名でした。

行き先は箱根の大涌谷と芦ノ湖周辺で、今年は例年になく朝から好天に恵まれ、自己紹介から始まったバス研修会は、あまりに皆さんが天気の話をするので、バスガイドさんが「そんなに毎年お天気に恵まれなかったの？」と目をまるくされ、和やかな雰囲気です。



大涌谷駐車場に入るのに1Km手前あたりから渋滞し小一時間ほどかかりましたが、着くと食堂が込み始める直前で揃って着席、壮大な景色を目の前に名物の“特製・大涌谷カレー”や“カレーうどん”を頂くことができました。



次に目指すは『1個食べれば7年寿命が延びる…』といわれている黒玉子。「1個くらいまだ入るよね?」「はいる、はいる～」と言いながら黒玉子売り場に急ぎ移動しました。時間ロスを皆さんの迅速な行動で挽回し、桃源台から乗る海賊船に予定の便で乗船できました。箱根の山々や名所を湖の上から気持ちよく眺めながらの30分は、あっという間でした。



最後の目的地“鈴廣かまぼこの里“では、試食を楽しんだり、おみやげを買ったりして、一日の終わりはバスの中で天気の話になり、「楽しかった」の感想も多く、とても充実した日になったと思います。 (事務局)

(注)「川崎スポーツの会」とは、川崎市内の本人の会交流会ことをいい、現在、「私たちの広場」と「優友会」の2団体が所属しています。

おしゃべり多摩7月・9月

多摩支部 神田 明子

7月14日(金)のおしゃべり多摩では、子どもたちが犯罪に巻き込まれたりしていないかという話の中で、留守の間に新聞の契約を勝手にしてしまった。お金を要求されたなどの情報が出ました。



9月22日(金)の会では、地域包括ケアシステムについての講演会に出られた方のお話を伝え聞きました。川崎市民は行政がしてくれるだろうと支持を待っているが、本来は地域の問題は地域で解決し、できないことを市に要望するという形が理想的である。問題を何処に持って行けばいいのか、ということが、まだまだ整備されていないという内容だったそうです。他にも病気になったり、けがをしたりした時、入院の許可がなかなか下りなかった話や、グループホームでの問題などいつものように「聞きたい・知りたい・話したい」が沢山でした。

次回は12月1日(金)10時30分～12時 福祉パルたまです。

高津わいわい茶話会

高津支部 森 由里



8月10日(木)高津わいわい茶話会を福祉パルたかつ会議室で行いました。14名の方の参加がありました。

今回は、特別に高津区社協の健康運動のマスコットキャラクターのテントラちゃんが登場し撮影会も行われました。その後区社協の職員さんより、おたっしや10(てん)のトライ「自助」&おたっしやでつながる地域の輪「互助」

の2つの挑戦についてのお話がありました。そして茶話会は、簡単な自己紹介のあと、久々に顔を合わせた会員同士様々な話で盛り上がり、予定時間が過ぎているのも気づかないほど楽しい集まりとなりました。

賛助会費

(順不同・敬称略)

| | | | | | |
|--------|---------|----------|--------|-------|----------|
| 秋和 実 | 川崎区京町 | 2,400 円 | 角田 政行 | 幸区下平間 | 20,000 円 |
| 関 公子 | 中原区上小田中 | 5,000 円 | 高井 美恵子 | 幸区南加瀬 | 30,000 円 |
| 吉田 美智子 | 中原区荻宿 | 3,000 円 | 高麗 喜久江 | 幸区鹿島田 | 5,000 円 |
| 結城 隆 | 川崎区藤崎 | 10,000 円 | 土屋 忠夫 | 幸区北加瀬 | 3,000 円 |
| 仁尾 圭一郎 | 幸区鹿島田 | 5,000 円 | 梅田 俊彦 | 宮前区初山 | 5,000 円 |
| 川村 ふじ江 | 幸区南加瀬 | 3,000 円 | | | |

※1,000 円以上の方を記載しています。

第42回 かわしん ふれあい市場

幸支部 仁尾 智都子



10月13日(金)かわしんふれあい市場が開催されました。当日は、あいにくの雨模様となりましたが、週末とあって予想した以上に来場者がありました。各事業所の真心のこもった製品にはファンがついていることも多く、買い物だけでなくおしゃべりを楽しむ人もいました。また、常連客の方々にとっては、新しい製品のチェックも楽しみの一つになっているようです。「かわしん ふれあい市場」は、毎年、5月と10月に開催されています。皆様、ぜひ、お立ち寄りください。きっと、気に入る製品に出会えると思います。

川崎市地域包括ケアシステム講演会 『多様な主体が協力・連携して行う地域づくり』



日時 平成29年11月22日(水) 14時～16時
場所 川崎市医師会館3階ホール(武蔵小杉駅より徒歩約10分)
定員 150名 参加費 無料
講師 後藤 純氏(東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師)

《パネルディスカッション》

- ・鈴木 恵子氏(「すずの会」代表)
- ・結城 眞知子氏(「育成会手をむすぶ親の会」会長)
- ・稲本 文雄・妙子夫妻(「こんにちは赤ちゃん訪問」訪問員)

申し込み FAXまたはメールで申し込みください。

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室(FAX) 044-200-3926
(メール) 40keasui@city.kawasaki.jp

「平成30年 成人を祝う会」のお知らせ

日時 平成30年1月13日(土) 12時30分(成人受付け)～15時40分
場所 川崎市民プラザ
主催 成人を祝う会実行委員会



2017年度版 **生活サポート総合補償制度**

知的障害児者・自閉症児者のための AIUの普通傷害保険(知的障害者等福祉団体傷害保険特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット)

| | | |
|--|---|--|
| 被保険者 (賠償の対象者) 知的障害児者または自閉症児者をご加入できます。 | 補償期間 (保険のご契約期間) 2017年4月1日から 1年間 | 掛金 入院2日目から補償プランB/ 掛金… 23,000円 (保険料 19,810円) 入院4日目から補償プランA/ 掛金… 17,000円 (保険料 14,810円) |
|--|---|--|

詳細は取扱代理店にお問い合わせいただくか、専用のパンフレットをご参照ください。また、ご契約に際しましては、事前に重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)を必ずお読みください。引受保険会社の損害保険専業人は、保険契約の締結の代理権を有しています。

保険のお問合せはこちら

| | |
|--|---|
| ■ 担当代理店 株式会社 ジェイアイシー 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビル2号館2F TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774 受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く) | ■ 引受保険会社 AIU損害保険株式会社 東京第二支店 〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階 TEL: 03-6894-9110 http://www.aiu.co.jp 受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く) |
|--|---|

ご加入のお問合せはこちら
やまゆり知的障害児者生活サポート協会
 〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区沢田4-2
 神奈川県社会福祉会館内
 TEL: 045-314-7716 FAX: 045-324-0426
 受付時間: 午前9時～午後5時
 (土・日・祝日・年末年始を除く)
(A-000628 2018-03)

※平成29年10月現在8,840名の加入がありました。毎月1日付で加入できます。ご加入よろしくお願いたします。

川崎市育成会手をむすぶ親の会活動報告

《平成29年7月19日～平成29年10月19日まで》

<各種会議、行事>

| | | |
|----------|---------------------|-------------|
| 7月19日(水) | 自由民主党との予算要望ヒヤリング | 市役所第2庁舎 |
| 25日(火) | 公明党との政策懇談会 | 市役所第2庁舎 |
| 26日(水) | 海水訓練 | 千葉県勝浦 |
| 8月23日(水) | 川崎市への予算要望書提出 | ソリッドスクエア |
| 29日(火) | 第2回広報委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 30日(水) | 関ブロ川崎大会実行委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 31日(木) | 第3回余暇活動委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 9月7日(木) | 第3回研修事業推進委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 8日(金) | 三役会議 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 13日(水) | 日通旅行と川崎大会に関する打合せ | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 15日(金) | おしゃべり塾 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 21日(木) | 第5回運営委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 30日(土) | 緑陰訓練(猿回しとリニアモーター見学) | 山梨県 |
| 10月5日(木) | 広報委員会(川崎大会) | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 10日(火) | 第3回権利擁護委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 11日(水) | 三役会議 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 19日(木) | 第6回運営委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |

<対外行事>

| | | |
|-----------|----------------------|-------------|
| 7月22日(土) | 関東甲信越千葉大会 | 松戸森のホール21他 |
| 9月3日(日) | 肢体不自由児者父母の会連合会総会 | 会館とどろき |
| 12日(火) | 平成30年度成人を祝う会第1回実行委員会 | 地域福祉施設「ちどり」 |
| 24日(日) | きらめき祭-体育学習発表会 | 市立中央支援学校 |
| 26日(火) | 障害者団体部会研修会 | 総合防災センター |
| 10月13日(金) | かわしんふれあい市場 | 川崎信用金庫本店 |

川崎市障害者作品展開催&出展作品募集のお知らせ

障害者が創作した個人作品を広く一般に公開することにより、文化交流及び障害者の社会参加推進を図り福祉の向上に寄与することを目的に開催します。

会場 川崎市アートガーデンかわさき 第1展示室

展示期日 平成29年12月20日(水)～平成29年12月24日(日)

主催 川崎市・川崎市障害者社会参加推進センター

応募資格 原則として市内在住・在勤・在学の障害児者

出品物等 当作品展に出展したことの無いもの

1部門につき1人1点(絵画、写真、書、手工芸、俳句・短歌、等)

申込期日 平成29年11月1日(水)～平成29年11月21日(火)

規格や申込み方法など、詳しい要綱につきましてはチラシをご覧ください。

《問い合わせ先》

川崎市障害者社会参加推進センター

〒210-0834 川崎市川崎区大島1-8-6

電話 044-246-6941

FAX 044-246-6943



平成28年度作品展

緑陰訓練の思い出



編集後記

会員の皆様、お元気でしょうか？今年の7月は極めて暑く、8月は寒いという大変不可思議な天候でしたね。天気予報とはこんなものかと割り切るべきでしょうか。きびしい天候ですが、親子ともども十分、お気をつけてください。

この会報がお手元に届くころはきっと快適な気候になるでしょう。

広報委員 篠原 博

【もくじ】

- P. 1 川崎市への予算要望提出／ホームページ
- P. 2 手をつなぐ育成会関東甲信越大会千葉大会
- P. 3 第1分科会「心に栄養を！」／第2分科会「ありのままに伝えたい」
- P. 4 第3分科会「計画相談で広がる暮らし」／第4分科会「高齢化を考える」
- P. 5 第5分科会「権利擁護を考える」／本人大会
- P. 6 川崎市市議団各会派との懇談会／まじわる de 学ぶ講演会
- P. 7 おしゃべり塾／関東甲信越大会千葉大会に参加して／自由投稿
- P. 8 海水訓練／緑陰訓練／ふれあいバザールみぞのくちお知らせ／私たちの広場
- P. 9 支部通信／賛助会費
- P. 10 かわしんふれあい市場／地域包括講演会・成人を祝う会お知らせ／やまゆり広告
- P. 11 親の会活動報告／障害者作品展のお知らせ
- P. 12 緑陰訓練写真／編集後記／もくじ／発行責任

発行責任者 川崎市育成会手をむすぶ親の会 会長 結城 眞知子

〒213-0011 川崎市高津区久本 3-6-22 地域福祉施設「ちどり」

TEL : 044-812-2966 FAX : 044-813-1216 <http://web-k2.jp/ikusekai-kawasaki>